

# 10/13(日)本試験の研究会参考解答例の解説 ……台風により西日本のみ実施

・10/13(日)実施された試験課題の特徴は、大きな点として建蔽率60%の厳しい限度指定、美術館本館との動線指定、3層吹抜けの面積指定、屋上設備スペースの指定と点線記載、各要求室等の床面積での以上指定や要求室間の関連性多様化等であった。

・また、課題文がA3伴内に納まりきれず、2枚目までとなっている。この点は、受験者に自由な設計をさせることを前提条件としながらも、従来と比較して、より設計課題の条件、関連性を指定しつつ、その内容を理解して設計できるかを見ている傾向が強くなったと判断できる。

以下、各項目でのポイントを記載する。

## ① 既存美術館(本館)からの動線計画

- ・計画敷地の東側に既存美術館(本館)があり、その本館敷地内には北側7m、南側6m、西側5mの通路スペースがある。
- ・既存美術館(本館)の中の西側には、西北にライブラリースペース・ロビー、西南にホワイエがあり、それぞれに出入口がある。
- ・留意事項「分館と本館との来館者の動線を適切に計画する。」があり、本館からの動線は北側と南側の両方から確保することが望ましい。

## ② 周辺環境

- ・敷地の西と南は公園であり、この方面への眺望を考慮した計画とする(公園は防火上有効な公園であるので、延焼ライン等考慮しなくてよい)。
- ・道路は北側一面道路で北東に横断歩道があるので、本館との動線も考慮すると、利用者の建物内への主出入口は北東が望ましい。
- ・敷地図には、注釈「※敷地と公園又は本館の建設地とは、自由に行き来できるものとする。」がある。

## ③ アトリエ関連諸室

- ・創作アトリエは、屋上庭園(3階指定有)に「直接行き来できるようにする」の条件より、3階設置となる。
- ・アトリエA～Bは、準備室との連携が必要であり、利用しやすい明確な階別ゾーニングの観点からは、3階に設置することが望ましい。
- ・講師控室は、「体験学習講座等の講師が使用する。」の条件より、3階設置となる。

## ④ 展示関連諸室

- ・展示関連諸室は、アトリエ関連諸室が上述より3階が望ましいことから、結果的に2階主体での計画となる。
- ・多目的展示室は、天井高さ6m以上の条件より、経済性のある階高を考慮すると、1階設置(2階吹抜け)の計画が望ましい。
- ・ホワイエは、上記より1階及び2階での計画となり、更に「快適な空間とする。」の条件より、西又は南の公園への眺望があると望ましい。

## ⑤ 共用部門

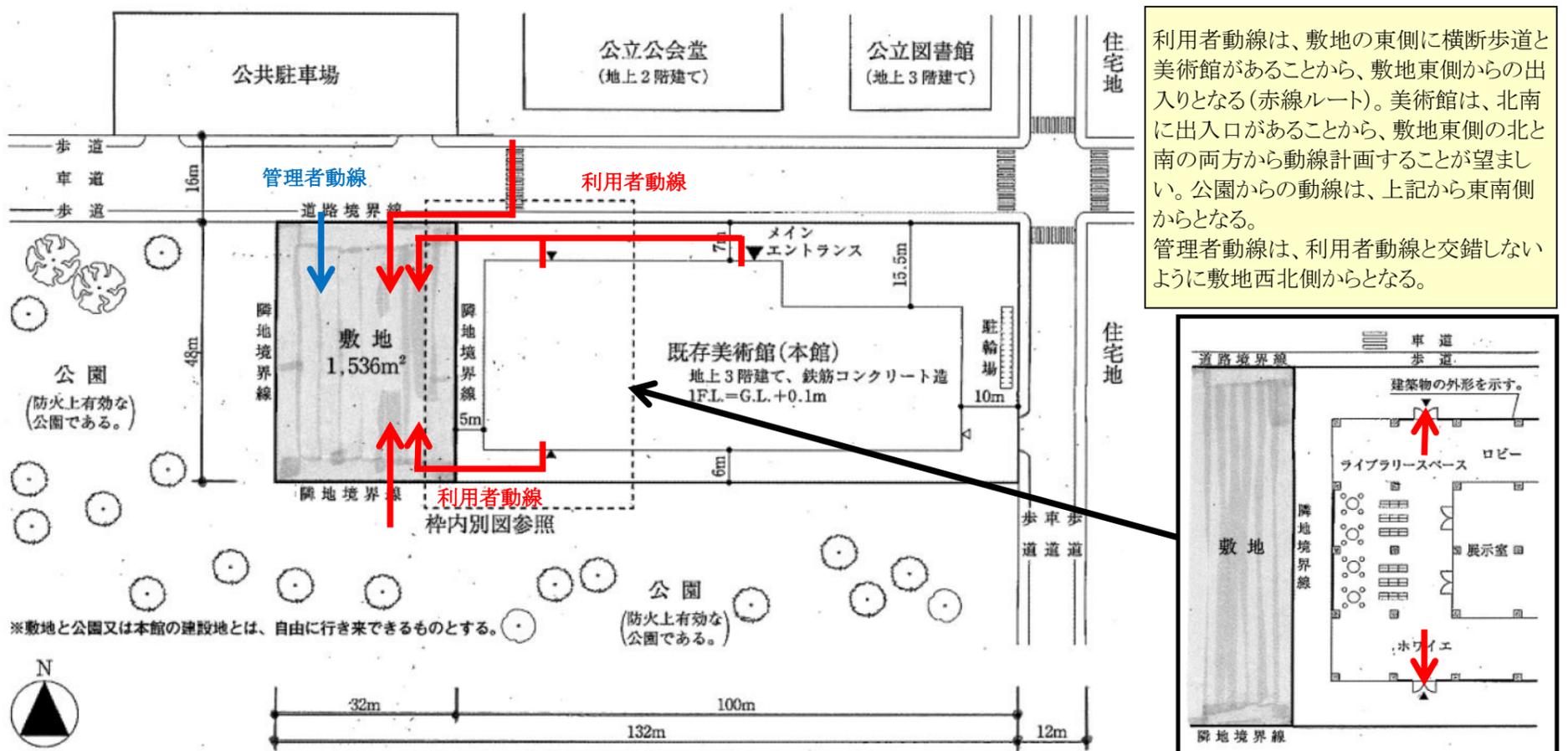
- ・3層吹抜けは、自然採光を確保するからトップライト、外壁窓との関連が必要となる(40㎡以上確保では風除室上部の面積含まずに注意)。
- ・ショップは、「カフェに併設させ」の条件より、カフェと一緒に設置するとなる(図としては点線併設とし、会計も一緒にするのが望ましい)。
- ・多機能トイレは、「オストメイト等に配慮」の条件より、最低でも2m×2m、可能ならば2m×3mでオストメイトを記載する。

## ⑥ 管理部門

- ・事務室は6人用とし、受付カウンターは監視考慮のほかチケット販売から主出入口近傍が望ましい(6人の小人数から更衣室は1室も可)。
- ・荷解き室は、「展示物等の搬入時の一時保管」の条件より、屋外トラックからの搬入、人荷用EVと近傍になる位置が望ましい。
- ・屋内ゴミ保管庫は、屋内に設置すると共に、屋内からの出入口は必要である(階段下を利用した計画は臭気の点から望ましくない)。

## ⑦ 設備スペース

- ・ポンプ室は、「消火ポンプと給水ポンプを設ける。約15㎡」の条件より、一室として約15㎡を確保する(階段下での設置は望ましくない)。
- ・屋上設置スペース約120㎡は、要求図書「屋上設備スペースの位置(設置した下階に、適切に平面図に点線で表記)」にて3階に記載する。
- ・上記条件により、断面図にも屋上設置スペースを記載する必要がある。





【2階平面図】

階高4.5mであることから、通常の階段の書き方に、更に下図場所に2段ずつ追加

管理者の廊下であっても、展示室への搬出入から廊下幅を4mで計画

展示室Cは、絵画展示より自然光により絵画への影響を考慮して無窓とするが、自然排煙用の「上部排煙用窓」を計画

研究会は、主出入口であっても底は1mを推奨、過去の解答図で主出入口の底幅1mがあることと、建蔽率及び容積率での面積計算で考慮しなくても良い利点あり  
ただし、最近の主出入口の底幅2mでの記載が多いので、時間的余裕のある場合は主出入口の底幅2mが望ましい

階高4.5mであることから、通常の階段の書き方に、更に左記場所に3段を追加  
この階段は利用者階段で禁止されている回り階段に該当しない

PSは基本的に上階の位置と同じ位置に計画

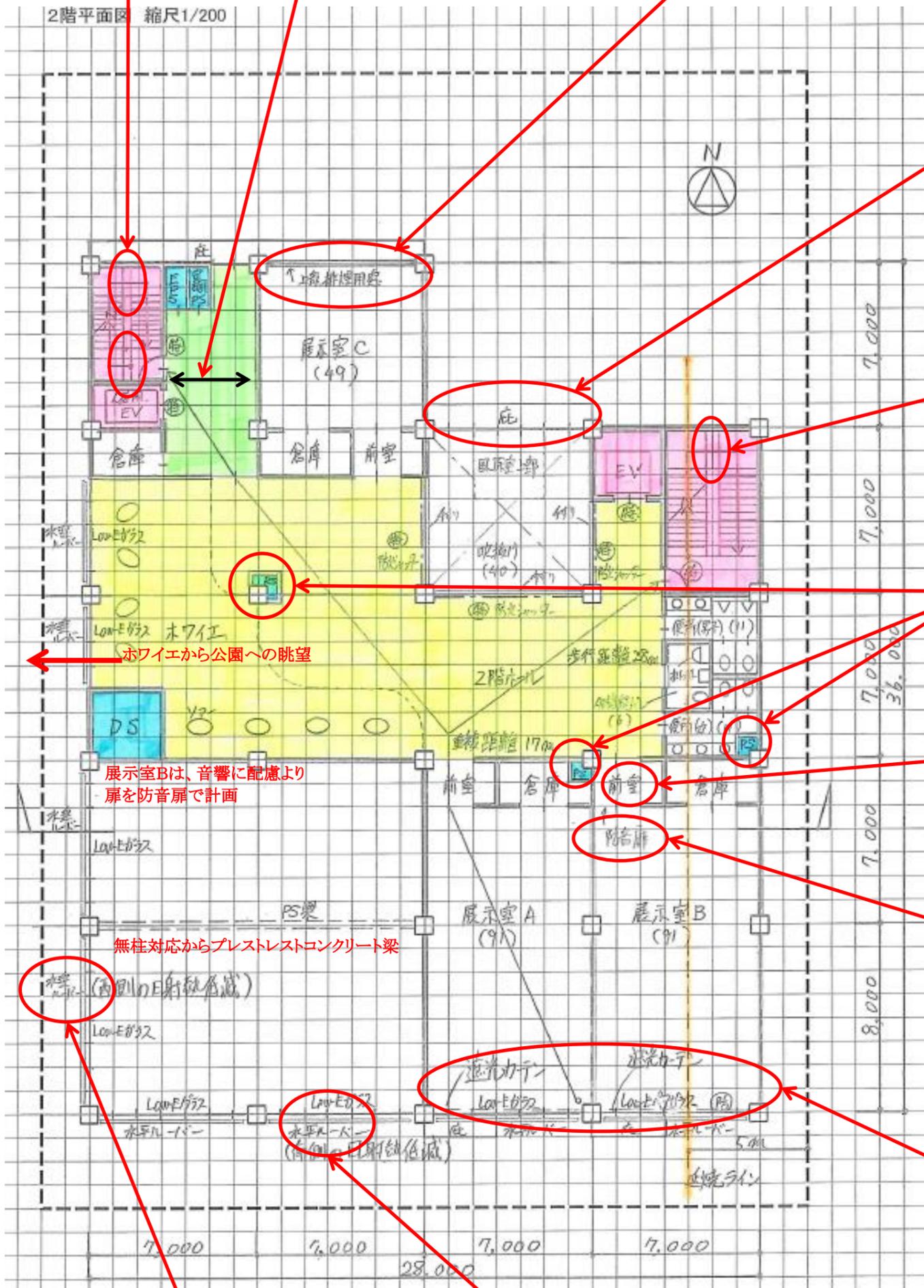
「前室」は、展示室の出入口に室として計画

展示室Bは、音響に配慮より扉を防音扉で計画

展示室AとBは、状況によって自然光取入れ等から無窓室を回避と光や陰影等への配慮から遮光カーテンを設置

西及び東の居室で窓がある場合は、原則垂直ルーバーを設置して西及び東の日射負荷を抑制(垂直又は鉛直ルーバーで誤字あり)

南の居室で窓がある場合は、原則水平ルーバーを設置して南の日射負荷を抑制



ホワイエから公園への眺望

展示室Bは、音響に配慮より扉を防音扉で計画

無柱対応からプレストレストコンクリート梁

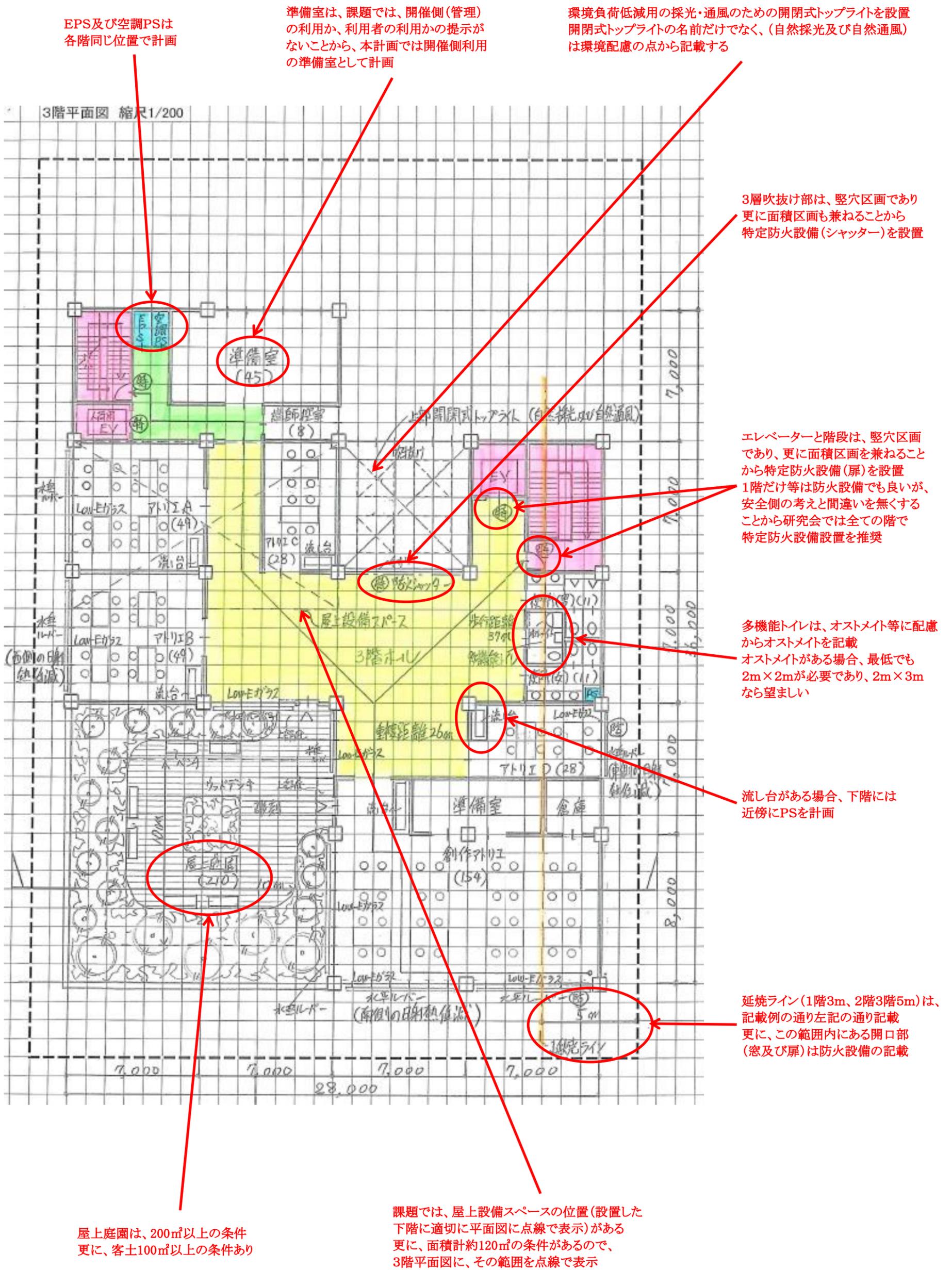
標準窓 (西側のE射熱低減)

標準窓 (南側のE射熱低減)

遮光カーテン (Low-Eガラス)

2階平面図 縮尺1/200

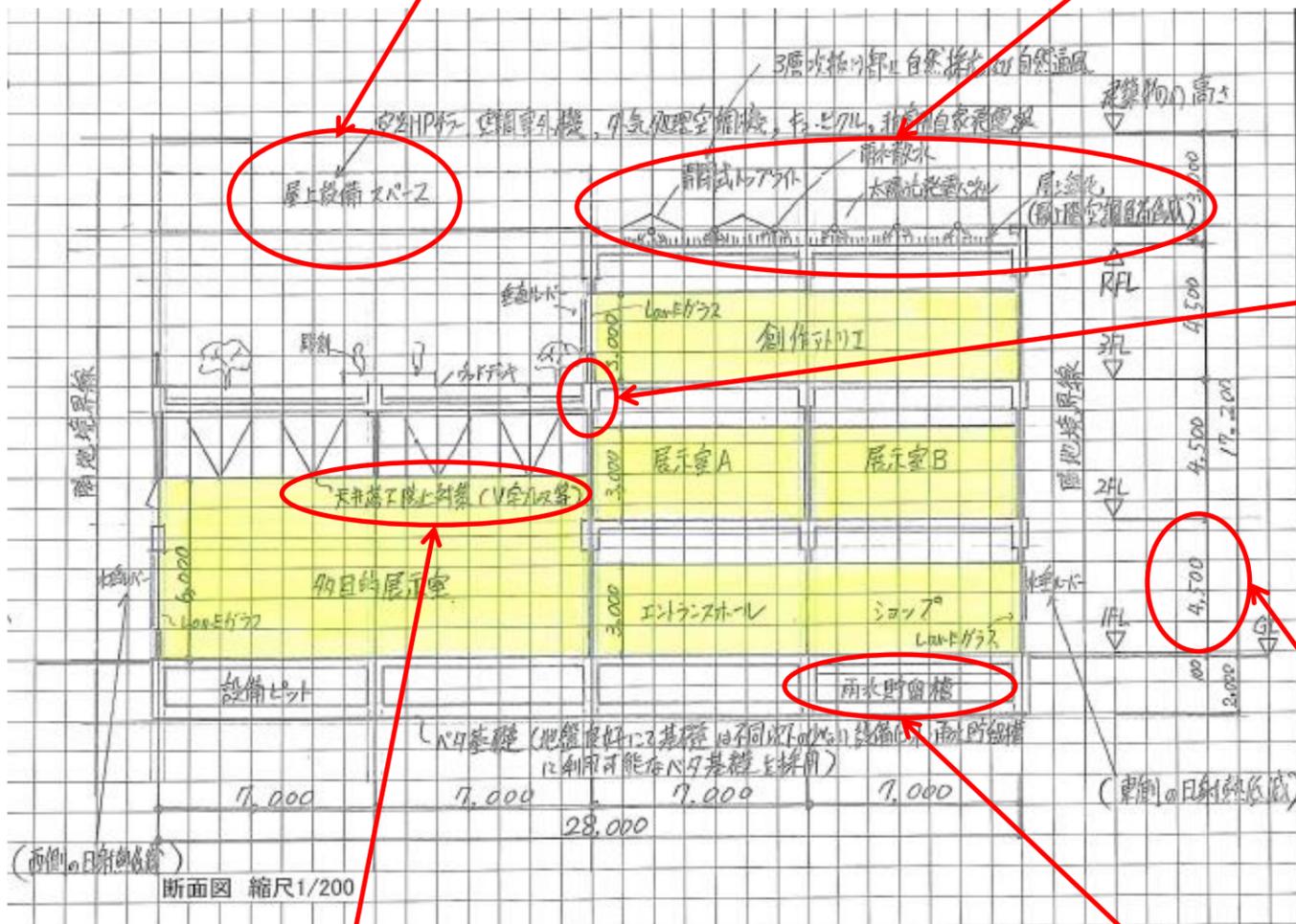
【3階平面図】



【断面図】

屋上設備スペースは、屋上設置が条件なので、断面図に記載し、その設備機械である空冷HPチャラー、空調室外機、外気処理空調機、キュービクル、非常用自家発電設備を文で記載  
文での記載により図として書くことを割愛

環境負荷低減対策としての開閉式トップライト、屋上緑化、雨水散水、太陽光発電パネルを記載



屋上庭園のスラブ段差は、スラブ下面までの距離として3FLから800mm下げているスラブ200mm、その上部に防水層+断熱層+押しコンが100mm、その上に客土500mmの合計800mm

主要な居室の天井高さが3m以上の指定があることから階高を4.5mとした、多目的展示室は1階2階の吹抜け空間とすることで、上部が屋上庭園であっても6m以上の天井高さを確保

高天井であることから、天井落下防止対策を記載し、その対策(V字ブレース等)を追記

ベタ基礎を採用、ピット部は設備配管ピット及び雨水貯留槽に活用  
更にベタ基礎とした理由を簡潔な文章で補足

面積表(算定式は、算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし第2位以下は切り捨てる。)

建築面積	(算定式) $28.0 \times 29.0 + 14.0 \times 7.0 = 910.0$	910.0 m <sup>2</sup>
床面積	3階 (算定式) $28.0 \times 29.0 + 14.0 \times 7.0 - 14.0 \times 14.0 - 7.0 \times 7.0 = 665.0$ (原土庭園) (吹抜け)	合計 2,240.0 m <sup>2</sup>
	2階 (算定式) $28.0 \times 29.0 + 14.0 \times 7.0 - 14.0 \times 14.0 - 7.0 \times 7.0 = 665.0$ (多目的展示室) (吹抜け)	
	1階 (算定式) $28.0 \times 29.0 + 14.0 \times 7.0 = 910.0$	

削除面積の箇所を補足